へ13
3749
9

門へ13
號3749
卷9

櫻文庫 十七編

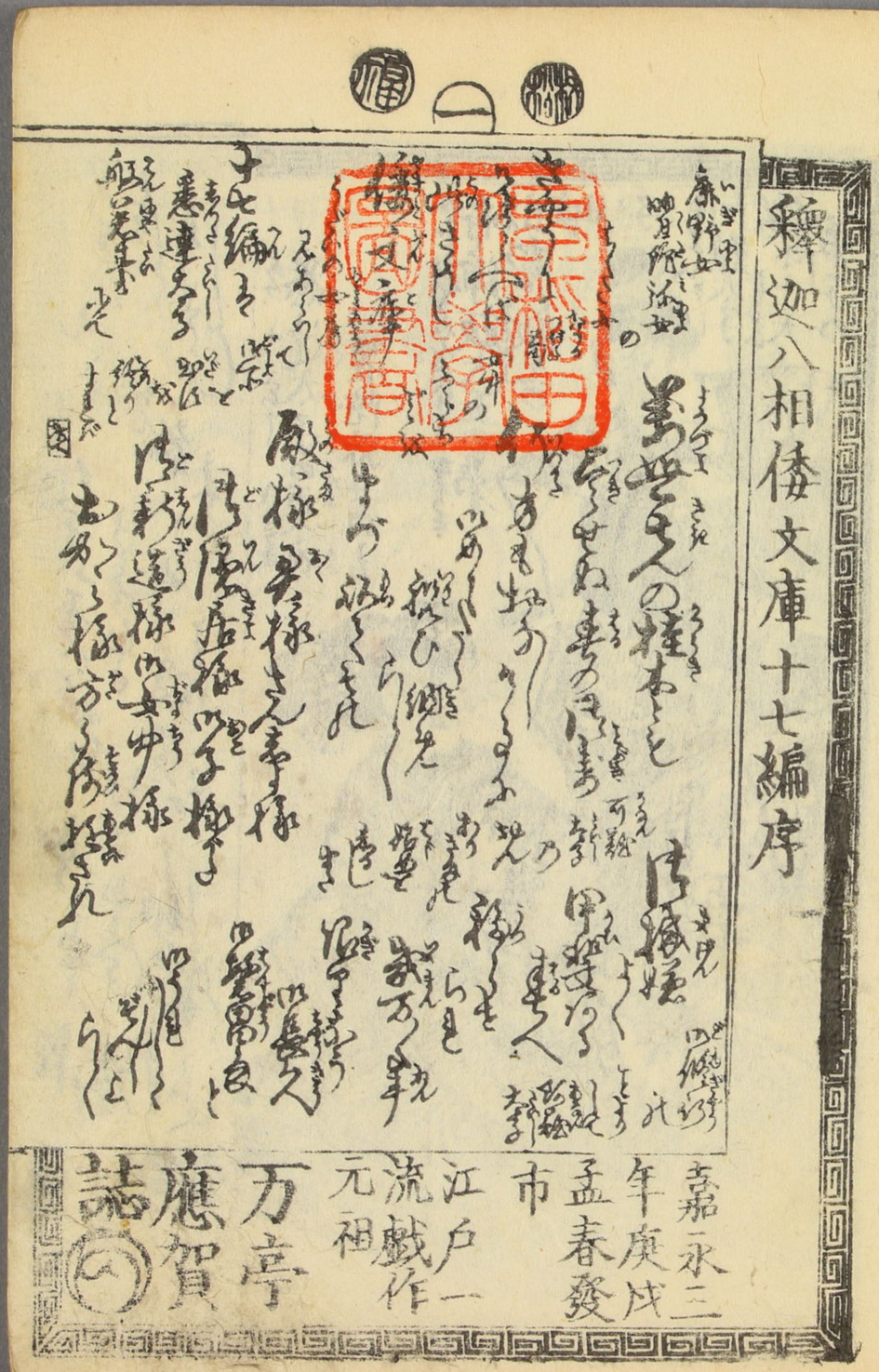
上冊

万亭應賀作
一陽齋豐國畫

錦重堂
壽梅

金次郎

庚戌春
發市



釋迦八相倭文庫十七編序

嘉永三年庚戌孟春發市

江戸一流戯作元祖

万亭應賀誌

悉達太子の更衣
瞿陀弥女の方

帝淨飯大王の弟
甘露飯王の御子
阿難太子
後の十大
弟子の

其一仁
阿難尊者

甘露飯王の弟
白飯王の御子
可難太子

後の十大
弟子の
其壹番目
可難尊者

瞿陀
弥の
局
女中

魔界長阿修羅王雪山の毘羅梵仙士と金剛法石かゝりて座禪を企つ尺迦達大子の照普比丘阿修羅王へ熊の肉を捧ゝる圖
雪山の毘羅梵仙士

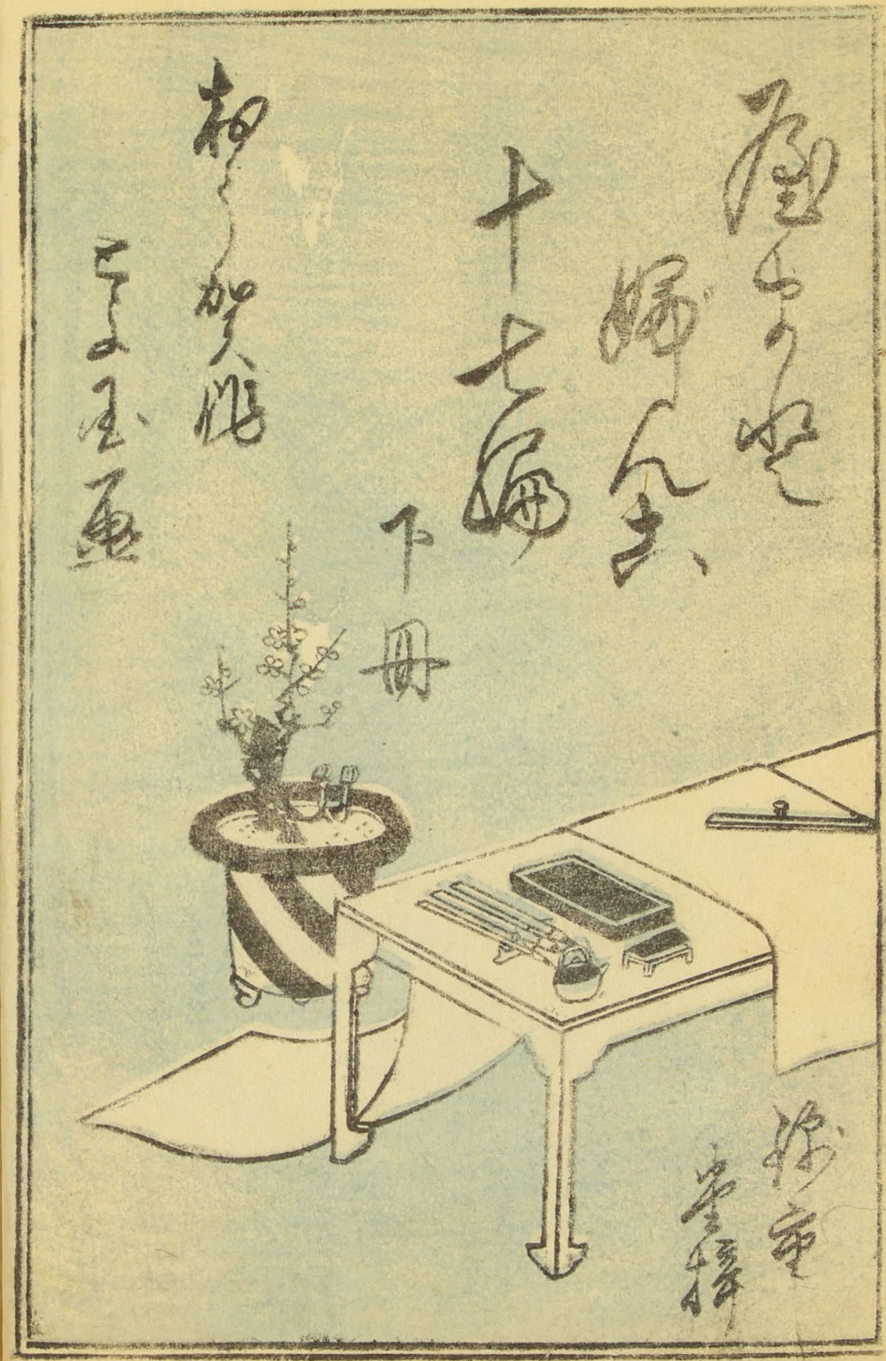
倭文庫　三十四編　三十五編　三十六編　三十七編　万亭應賀作　一陽齋豐國画
赤松譚　九編　十編　如淵外史作　同画
重井菱　六編　七編　為永春水作　同画
譚柄璃璃蘇　四編　五編　西澤一鳳作　一勇齋國芳画
茶番案文　全冊　万亭應賀作　一陽齋豐國画
神代そろは　三編　四編　同作　一勇齋國芳画
金重本類錦繪人形　上州屋重藏

一陽齋豐國画

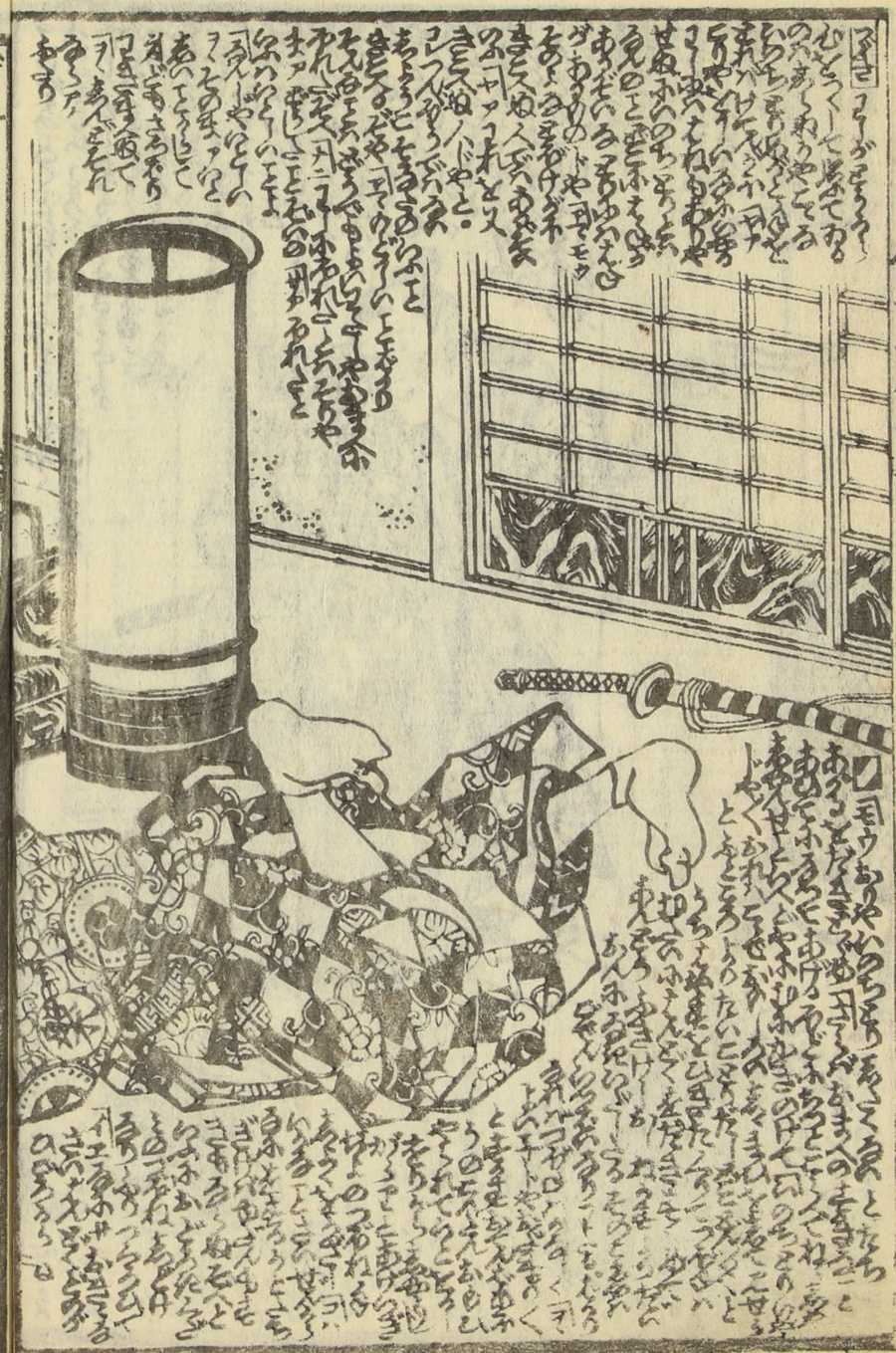
剝刊

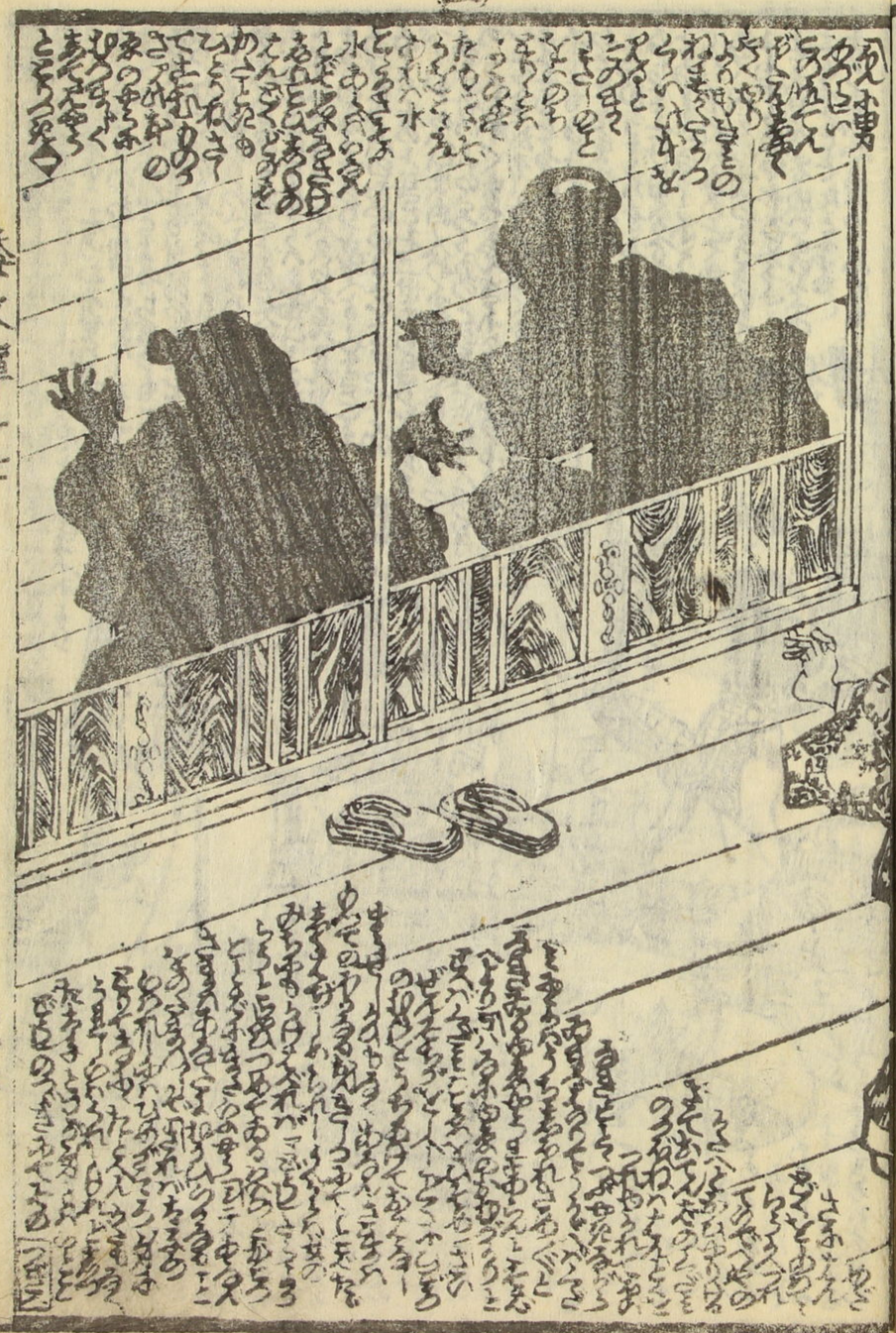
下

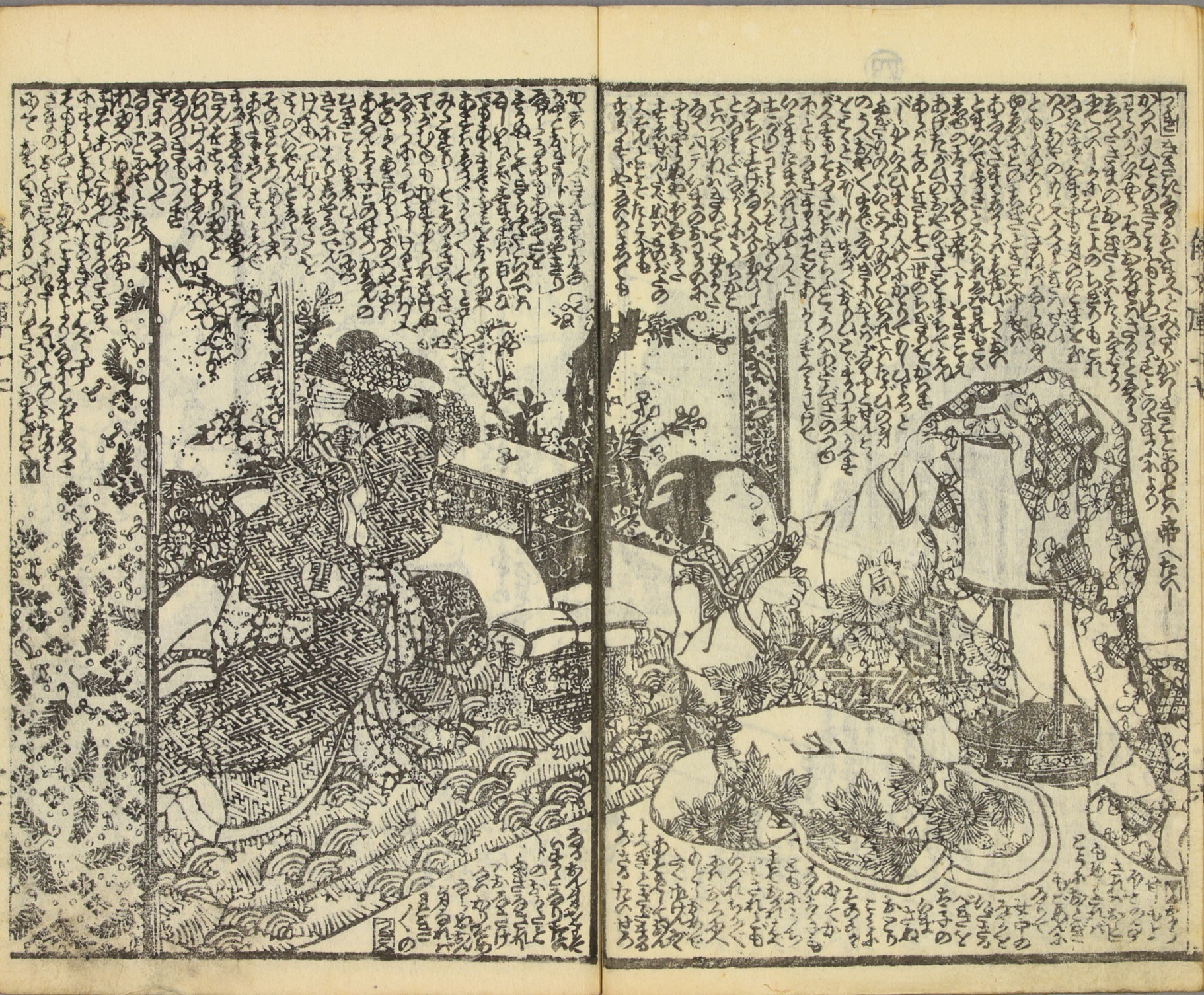
上州屋版


十七編
下冊

三







万亭應賀作 一陽齋豊國画

安政三年丙辰春新板目録

倭文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画

春の手遊　将棋双六　同　歌川貞房画

男女振合　役替双六　当年の春の手遊　同　一陽齋豊國画

大寶御江戸圖　極上摺　奉書六枚半續　此品外くのあとより絵柄を上中下の仕立　あるいは中下の仕立あるいは絵なし彩色

清元稽古本　初編　二編　出板　三編　四編　追々出板仕い

常磐津懐中本　初編　二編　三編　四編　追々出板仕い

極上摺　百枚掛　擬百人一首　是は常磐津懐中本と同仕立にて極上摺百枚掛　一陽齋豊國合　勇齋國芳　立齋廣重　筆

倭文庫拾八編

万亭應賀作

上

釋迦八相倭文庫拾八編の口上

同緑

一同安翻一拍一形八寸倭小文庫編三文

模様倭文庫一四
仲人八人

当春は発行致し

抜あるを抜へ出

冥くに出て

ぶ為に

中ほどに

祝の為

歳寒の

丑

正月吉日

一流戯作

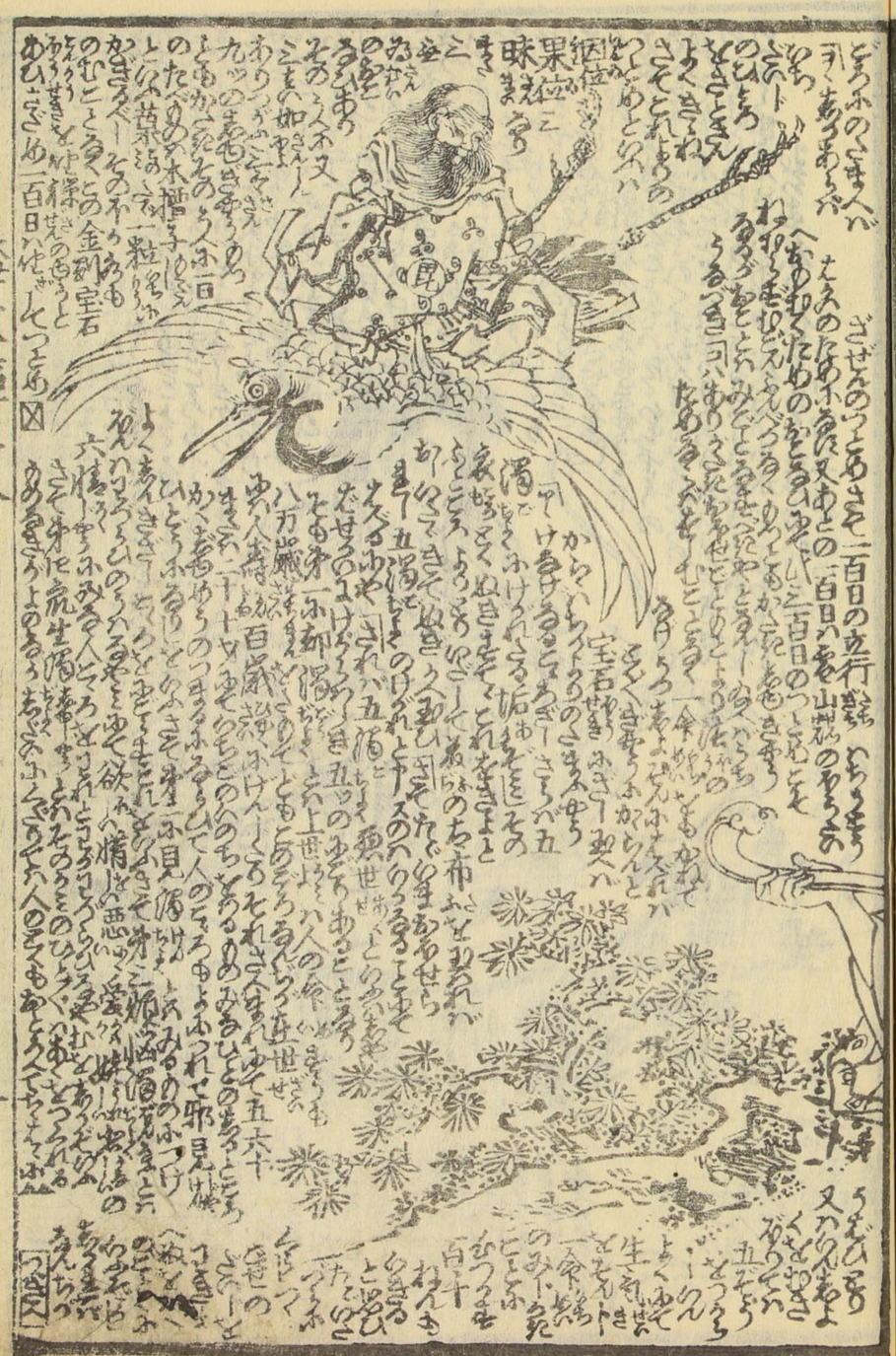
万亭應賀

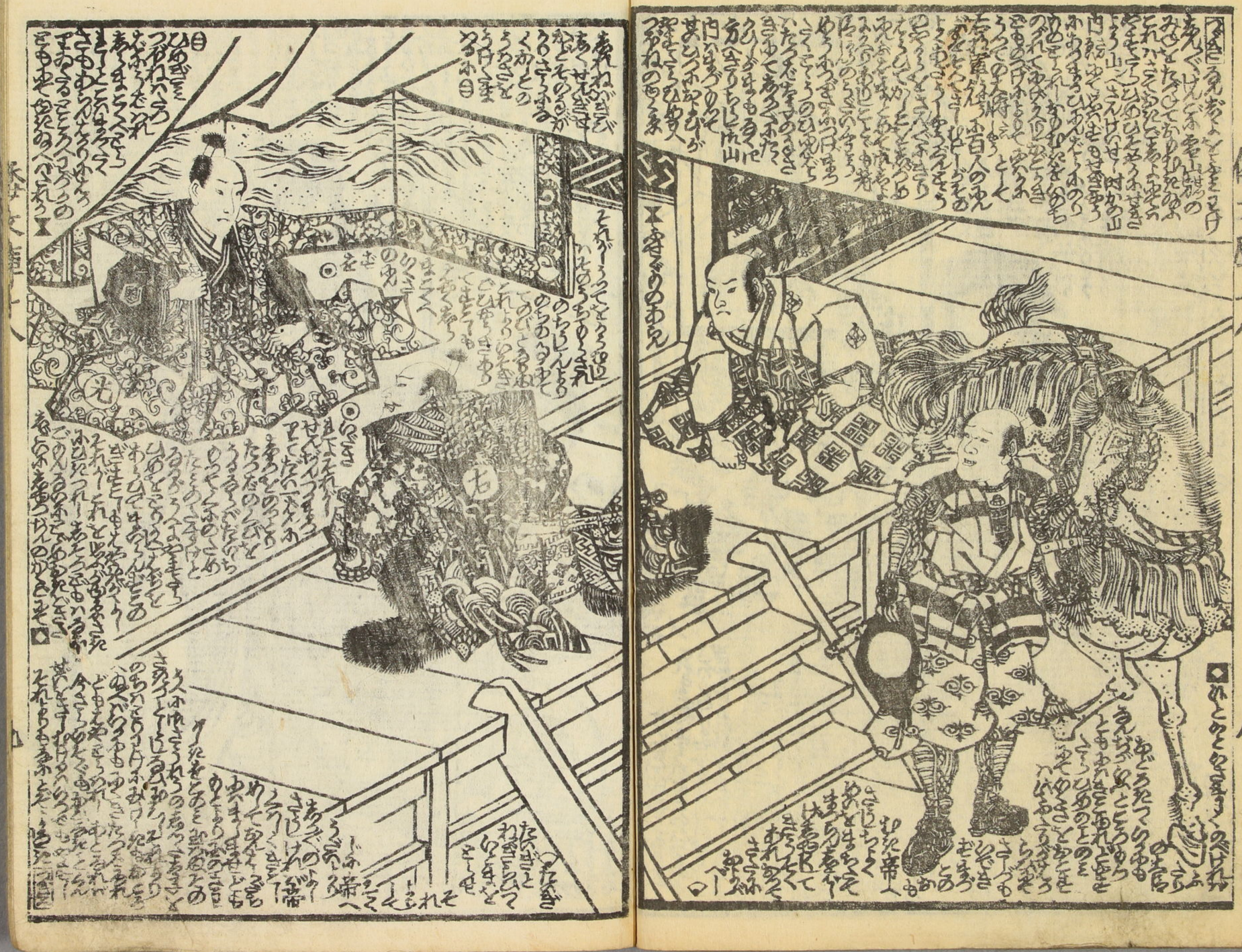
伽羅々仙人
天童子
慈連大子の
眼普光仙
名を改めて
金剛法石
二百日の
間三昧
行をす

天童子

耶輪陀羅女の局女中
鹿野女の局女中

耶輪陀羅女御所ふ帰りそ悪者の楽書四条ふ局女中と猪共ふ無實の罪ふ落らるゑ不眠責ふ逢しまふ
弾議の役使番の女中





安政三年丙辰春新板目録

倭文庫　三十四編　三十五編　三十六編　三十七編　万亭應賀作　一陽齋豊國画

赤松譚　九編十編　如淵外史作　同画

重井菱　六編七編　為永春水作　同画

譚柄璃璃蕣　四編　五編　西澤一鳳作　一勇齋國芳画

茶番案文　全冊　万亭應賀作　一陽齋豊國画

神代とは　三編　四編　同　一勇齋國芳画

金本類錦繪　人形　上州屋重藏

一陽齋豊國画

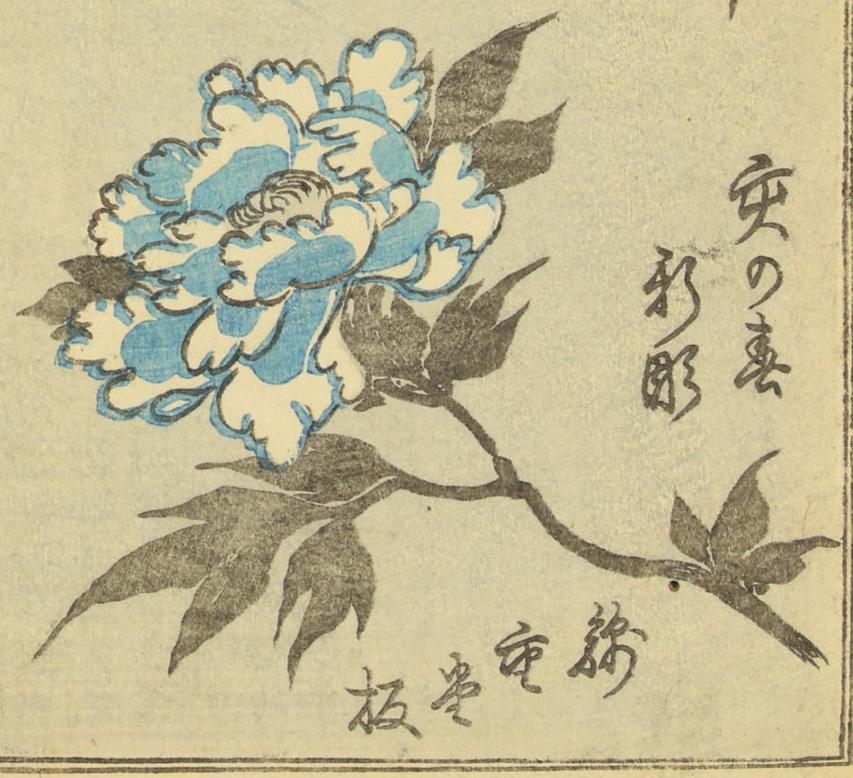
嘉永四年
辛亥春
新梓

上州屋版

下

傳文庫 十編

恵賀堂
壹國画



牡丹の表
彩彫

彫師
板

万亭應賀作 一陽齋豊國画

俵文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画

春の手遊　将棋双六　同　歌川貞房画

男女振合　役替双六　尚年の内の役替　同　一陽齋豊國画

大寶御江戸圖　極上摺　奉書六枚半續　はるか外しのあとちらし板さし上り　ちらし仕立　あらく物ちらし板さし上り　ちらし仕立

清元稽古本　初編　二編　出板　三ぎ色形ち懐中ぶり一冊ニ番数八番ちらし

常磐津懐中本　初編　二編　三編　四編　追ゝ出板仕り

極上摺　百枚摺　擬百人一首　是ハ錦絵百枚摺ニ変化ス　仕立あとハ万亭ニ出ス　一陽齋豊國合　勇齋芳国　広重筆

梅主新小歌